

東北大学クリニカル・スキルスラボ講演会

赤ちゃんの命を守るために 乳幼児突然死症候群の理解と予防

11月12日（日）に良陵会館記念ホールで、乳幼児突然死症候群(SIDS)に関する講演会を開催し、一般市民や医療職・保育職・消防職員など総勢60名の方が参加されました。11月は厚生労働省で定める『乳幼児突然死症候群の対策強化月間』であることから、子どもに関わる多くの方にSIDSを理解してもらいたいという願いのもと開催されました。

講師に仙台市立病院救命救急センター長である村田祐二先生をお招きし、SIDSに関する講話を行っていただきました。SIDSとはそれまで元気だった1歳未満の赤ちゃんが、事故や窒息ではなく眠っている間に原因が分からず突然死亡してしまう病気です。直接的な原因はまだ分かっていませんが、「仰向け寝で育てる・タバコはやめる・できるだけ母乳で育てる・一人にしない」ことが発症リスクを低くすると分かっています。

また、SIDSでお子様を亡くされたご遺族である西村洋平様にも講話を行っていただきました。話をする側も聞く側も辛い気持ちになると思うが、それでもこの子のためにできることは、多くの人に知ってもらい、皆さんのきっかけとなればと話されていたことが印象的でした。

最後は仙台市消防局救急救命士である森俊三様と佐藤友昭様を中心とした消防職員の方より、救急要請の仕方や心肺蘇生法について指導していただきました。乳児のシミュレータを用いて胸骨圧迫について学んだ後に、評価型乳児のシミュレータで胸骨圧迫の深さや速さが適切であるか確認しました。また、のどに物が詰まった際の除去法についても、体験いただいたことで注意点がより明確になったようです。

この講演を通して、一人でも多くの方が関心を持ち、予防に努めようとする方が増えることを願います。

